

マンション戦争～ありふれた物語

標題は5月28日の深夜に放映されたCBCドキュメンタリー。数年前から「定点観測」を続け、レポートなどで紹介してきた名古屋市瑞穂区白龍の15階建てマンション建設をめぐる「物語」だ。50分近くの映像をメモしながら視聴した。まずは、映像を私流に紹介したい。映像は写真「名古屋白龍 住環境を守る会」ホームページなどから視聴できる。



半世紀余りタバコ店を営む青木さん。毎朝、のぼり旗を持ってマンション現場に通う。このまちで、親の代から薬局を営む奥田恭正さん。「街は長年、住民がつくってきた。それを業者さん分かっていただかないと、トラブルのもとに」。

静かな街に突然45mの高層マンション建設の話が浮上する。道路拡幅が中止になったが、道路両側20mはそのまま近隣商業地域の指定。業者は「建築は合法だ」と、強引に工事を進める。住民は毎朝、建設反対の声を上げるが、警察は逮捕をちらつかせて警告する。暑い夏が過ぎていく。

2016年10月、奥田さんは現場監督を突き飛ばしたとして現行犯逮捕される。警察は2週間にわたり留置場で自白を迫り、釈放前日には自宅や薬局を家宅捜査。奥田さんは釈放されたが起訴され、「刑事被告人」となり長い裁判が始まる。住民も「市議会3分スピーチ」や人生初のビラ配りなどで、裁判支援の活動を懸命に続ける。被告人尋問や画像鑑定などの公判を経て、判決の日を迎える。

2018年2月13日。この日、奥田さんは朝から落ち着かない。奥さんは無罪を信じて、「白装束」で裁判所に。午後3時半、「被告人は無罪」の判決。住民が事前に準備していた「無罪」の垂れ幕を持って法廷から飛び出す。垂れ幕が寒風になびく。検察が控訴を断念して、奥田さんの無罪が確定。「最後の2週間、長く感じた」と。無罪確定後も、住民は毎朝マンション前に。東京・国立市の上原元市長も、マンション建っても「めげないでほしい」とエールを送る。

2度の調停をした名古屋市の担当者は、「紛争」を当然視するような発言。大手開発会社の役員の話は、もっと酷い内容。日本の法律では絶対につくれる。裁判をやったら、ほぼ負けることはない。住民の理解は得られないので、あきらめてもらう。最後はお金で。住宅は現在、800万戸以上だぶついている。だがマンションは「スラム化」しない。30～40年後、どうなるか分からないが。

奥田さん夫妻は警察で説明を受ける。あの捜査は適切、無罪判決や奥田さんの質問には、コメントできないと。奥田さん夫妻は怒りのなか帰路につく。マンション入居者は、地域住民との「交流」はないと。青木さんは今朝も、のぼり旗を持ってマンション前に。

こんな紹介では伝えられなかったことも多い。ぜひ映像を視聴してほしい。やはり、映像は「エイゾー」だ。奥田さん逮捕のころから、「事件」に関心をもち、マンション建設現場を「定点観測」して、レポートなどを書いてきた。でも、この映像で、初めて知ったことも多かった。番組ディレクターの有本さんには、名古屋地裁で何度かお会いしたことがある。長期にわたる困難な取材によるドキュメンタリー番組に感謝したいが、「注文」もいくつかある。

全体としては「映像はエイゾー」なのだが、どうも気になる点もいくつかある。大手建設会社役員の発言は、建設業界の「ホンネ」を知るうえで興味深いのが、企業側だけの一方的な主張、「自慢話」だけでいいのか。マンション紛争にかかわる弁護士、住民のコメントがほしかった。それと名古屋市の都市計画担当者の発言に対しても、住民からの感想があればと感じた。

(2018年6月1日)